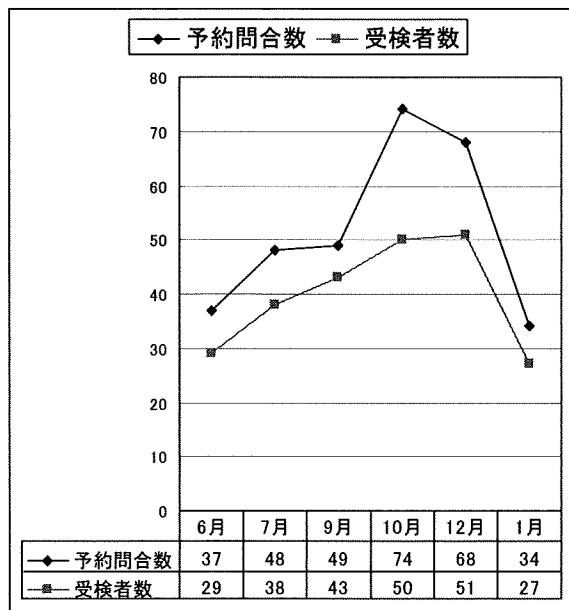


日・祝祭日を含む原則として毎日 14:00～18:00 時とし、NPOの資源を活用することで、利便性の高い予約・相談の受付体制を確保した。年間で計 363 件の予約・相談を実施した。

また、主訴に予約に関する問合せが含まれる相談に関しては、年間で合計 310 件あった。グラフ 4 に月別の予約問合せ件数と実際の受検者数を図示した。1.5 倍の問合せが寄せられている。

グラフ 4 中野区予約者問合せ数と受検者数



(g) 事業の効果評価

事業評価およびニーズ評価のために、受検者の実際の検査に対する満足度などの調査(形態評価)と受検者の検査に対する認識などの調査(ニーズ評価)を実施した。すべての受検者を対象としてアンケート用紙を配布し協力を依頼した。アンケート回収率は、99.6% (237名)であった。設問は合計 23 問で、属性に関するもの(3 問)、検査を受けるきっかけ(広報・理由)(2 問)、受検経験(1 問)、検査ニーズ(2 問)、検査の感想(4 問)、形態評価(7 問)、性感染症に関して(3 問)、自由記述からなる。アンケートで得られた回答に対して統計的解析をおこなった。統計用ソフトは、SPSS11.5Jを用いた。

●受検者数と陽性件数

受検者数(予約合計、うちキャンセル数、受検者合計、男女別内訳)は、表 10 のように、予約合計 268 名、受検者は 238 名(男性 129 名、女性 109 名)であった。なお、要確認検査(判定保留)はいなかった。

表 10

検査日	予約		受検		
	合計	うちキャンセル	合計	男	女
6月27日	32	3	29	14	15
7月25日	40	2	38	20	18
9月26日	45	2	43	18	25
10月24日	63	13	50	28	22
12月12日	61	10	51	34	17
1月23日	27	0	27	15	12
合計	268	30	238	129	109

●受検者の属性

受検者の平均年齢は、30.1 歳であった(18 歳～64 歳)。年代は、10 歳代 6.3% (N=15)、20 歳代 48.7% (N=116)、30 歳代 34.1% (N=81)、40 歳代 8.0% (N=19)、50 歳代 2.5% (N=6)、60 歳代以上 0.4% (N=1) であった。

住所地は、中野区内が 31.5% (N=75)、その他都内(中野区内を除く)が 50.8% (N=121)、他道府県が 17.6% (N=42) であった。また受検が初めての受検者は 69.3% (N=165) であった。20～30 代の若年層の受検がもっとも多く、感染が懸念されている若年層を中心に受検機会を提供できたと言える。

受検につながった感染不安の原因では、「性的接触」をあげるものが 85.7% (N=204) であり、そのうち異性間での感染不安をあげる男性が 40.2% (N=82)、女性が 39.2% (N=80) であった。同性間での感染不安をあげる男性は 11.27% (N=23)、両性間での感染不安をあげる男性が 2.9% (N=6)、無回答が 6.4% (N=13) であった。

また、「血液による感染不安」が 1.7% (N=4)、「血液製剤や輸血による感染不安」が 0.8% (N=2)、また、「気になる症状」をあげるものが 8.0% (N=19)、「その他」が 29.4% (N=70) であった。

なお、既往歴に性感染症をあげた人が 19.7% (N=47) 見られた。(表 11)。

表 11 受検につながった感染不安

	N	%
性的接触	204	85.7
血液感染	4	1.7
血液製剤・輸血	2	1.4
気になる症状	6	0.8
その他	70	29.4

また、当検査室の情報をどこでみたか(複数

回答)を尋ねたところ、「インターネット」が81.5% (N=194)であり、そのうち「中野区のホームページ」は12.3% (N=24)、「H I V検査マップ」が43.8% (N=85)であった。また、「区報」を見たものは9.3% (N=22)、「保健所への相談で聞いた」が3.4% (N=8)、「テレビ、新聞など」が1.3% (N=3)であった。(表12)。

表12 媒体(複数回答)

	N	%
インターネット	194	81.9
区報	22	9.3
保健所	8	3.4
ポケットティッシュ	3	1.3
テレビ・新聞	3	1.3

検査を受けることにした理由については、(複数回答)、「結果が当日に分かるから(即日検査)」が62.4% (N=148)、「土日だから」が51.1% (N=121)、と「即日」「土曜」などの本事業の特徴が受検理由としてあがっていた。その他には、「感染の心配なことがあったから」が43.9% (N=104)、「気になる症状があったから」が11.8% (N=28)であり、感染が不安となる具体的な要因を抱え、具体的な受検を必要としている層に検査機会を提供できた。(表13)。

表13 検査を受けることにした理由

	度数	%
即日検査	148	62.4
土日の実施	121	50.8
感染が心配	104	43.7
駅に近い	34	14.3
気になる症状	28	11.8
念のため	95	40.1

●検査相談への評価

検査を受けて「役立つ知識が得られたか」については、76.4% (N=181)が、「不安・心配が和らいだか」については、70.9% (N=168)が「はい」と答えた。検査・相談が、知識の習得や不安の軽減に役立っていることが分かった。

このほか、会場の適正、スタッフの対応等については、「検査場の場所はよいか」について、「はい」が87.8% (N=208)、「スタッフの対応が丁寧だったか」は91.6% (N=217)と環境・ソフト面共に高い評価が得られた。また、「プライバシーの面で安心して検査を受けられたか」は81.5% (N=194)、「所要時間は適切だったか」は75.6% (N=180)と、肯定的な評価をもっていた。

さらに個々の対応について、「検査前の説明はわかりやすかったか」は89.5% (N=212)、「検査結果の説明や相談は十分だったか」は83.5% (N=198)、「電話受付の説明は十分か」は86.6% (N=206)であった。

●連携事業の効果(昨年度との比較)

中野区の平成20年度の検査数とNPO連携による検査事業を開始した平成21年度の検査数の比較をおこなった。

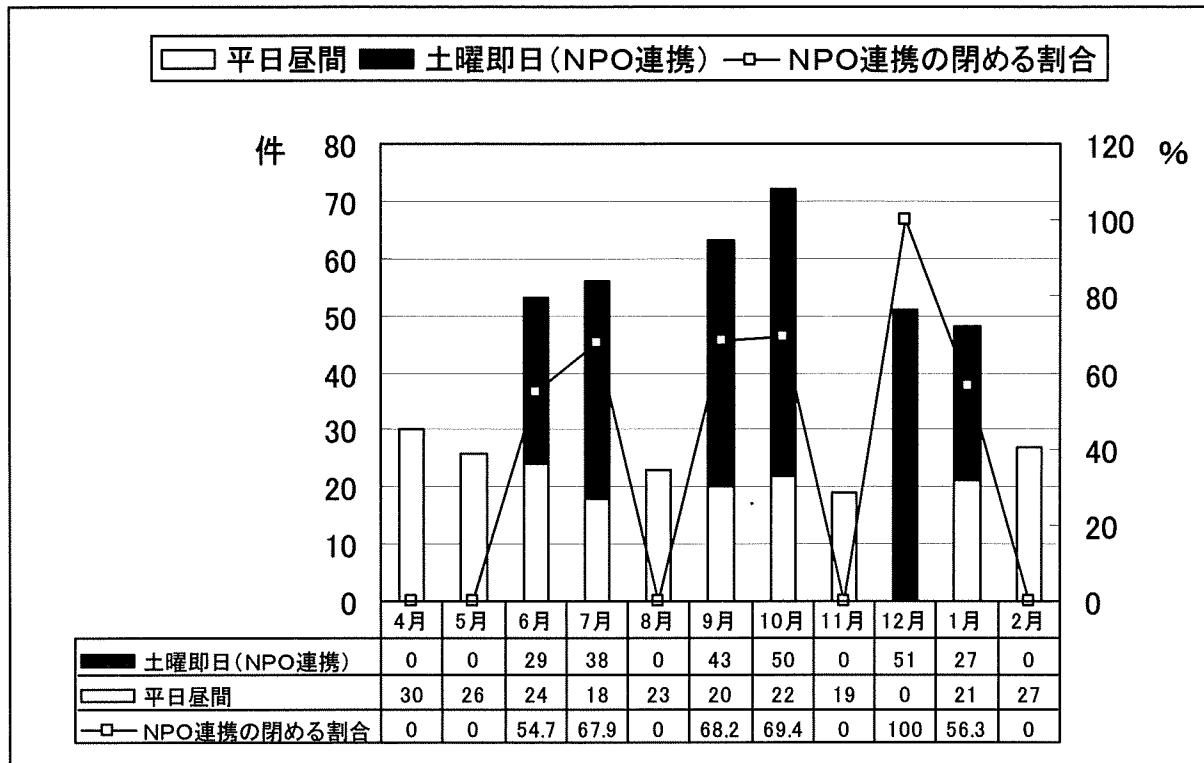
中野区の平成20年度の検査数は合計386件であり、対して平成21年度の検査数は合計486件であり、前年の検査総数を上回る検査数の増加が見られている。また、中野区が単体で実施した検査は平成20年度386件であったのに対し、平成21年度は248件と受検者数の減少が見られたが、NPO連携による検査事業の実施を加えると総受検者数は増加しており、全体としての受検者の増加につながっている(表14)。

表14 受検者数(20年度と21年度比較)

	20年	21年
平日昼間(保健所)	386	248
休日即日(NPO連携)		238
合計	386	486

月別の推移については、開設当初の6月は検査総数53件中NPO連携による検査数は29件54.7%、7月は56件中38件67.9%、9月63件中43件68.2%と中野区内の検査数におけるNPO連携による検査事業の占める割合が増加しており、中野区の検査体制の充実に貢献している(グラフ5)。

グラフ 5



2. 個別施策層の受診に関する実態調査

2009年10月～2010年3月に、HIV検査受検者(N=413)ならびに同性愛者向けのHIV予防啓発プログラム参加者(N=319)を対象に実施した質問票調査により、医療機関へのニーズやSTDやHIV診療に関する行動を分析した。

調査対象者は合計732名、性別は男性77.0%(N=564)、女性23.0%(N=168)であった。性的指向は同性愛48.2%(N=353)、異性愛38.1%(N=279)、両性愛1.0%(N=7)、不明12.7%である。

まず、性感染症やHIVについて心配なときに受診できる医療機関の認知について尋ねたところ、「知っている」と答えたのは全体の19.1%(N=140)であった。

「性感染症やHIVで受診する際に重視する点」は、全体では「プライバシー」が72.5%(N=531)で最も高く、「診療時間(夜間・休日など)」が44.1%(N=323)、「医師の説明のわかりやすさ」が42.8%(N=313)であった。(表15)

「性感染症やHIVについて心配なときにとる行動」は、「ネットで調べる」が83.4%(N=612)、「本で調べる」28.0%(N=205)、「友人知人の意見を聞く」21.7%(N=159)、「行政の相

談を利用する」13.7%(N=100)、「NPOの相談を利用する」16.8%(N=123)であった(表16)。

さらに、「性感染症やHIVについて心配なときに受診できる医療機関の認知」、「性感染症やHIVで受診する際に重視する点」、「性感染症やHIVについて心配なときにとる行動」それぞれの要素について、同性愛者(N=353)と異性愛者(N=279)による偏りが見られるかどうかについてカイ二乗検定を行った(表17～19)。

まず、「性感染症やHIVについて心配なときに受診できる医療機関の認知」については、 $\chi^2(2) = 47.19, p < .001$ で統計的に有意な偏りが見られ、同性愛者のほうが異性愛者よりも受診できる具体的な医療機関を認知している。

「性感染症やHIVで受診する際に重視する点」では、「性行動への理解」について、 $\chi^2(1) = 25.90, p < .001$ で統計的に有意な偏りが見られ、同性愛者のほうが異性愛者にくらべ、医療機関に性行動への理解を求めている。また、

「HIV感染者への理解」については、 $\chi^2(1) = 11.62, p < .05$ 、「同性愛・性同一性障害への理解」については $\chi^2(1) = 224.87, p < .001$ で有意な偏りが見られた。同性愛者は医療機関受診の際に性行動や、HIV感染者や同性愛・性同一性障害への理解を求めている傾向がある。

「評判やクチコミ」については、 $\chi^2(1) = 9.18,$

p<.05 で有意な偏りがあり、同性愛者のほうが評判やクチコミを重視していた。

また、「性感染症やH I Vについて心配なときにとる行動」では、「本で調べる」が $\chi^2(1)=19.45$, p<.001 で有意な偏りが見られ、異性愛者のほうが心配なときに書籍で調べる傾向があった。「友人知人の意見を聞く」については、 $\chi^2(1)=41.30$, p<.001 で有意な偏りが見られ、同性愛者のほうがH I VやSTDの不安の際には友人や知人などに意見を求めることが明らかになった。

表 15 H I VやSTD受診において重視すること

項目	%	N
プライバシー	72.5	531
診療時間（夜間・休日など）	44.1	323
医師の説明のわかりやすさ	42.8	313
金額	40.3	295
H I V感染者への理解	37.6	275
同性愛・性同一性障害への理解	34.4	252
性行動への理解	33.1	242
治療経験の豊富さ	27.6	202
交通の便	26.5	194
待ち時間	16.9	124
予約制の有無	16.1	118
評判・クチコミ	13.3	97

表 16 H I VやSTDの心配の際の行動

項目	%	N
ネットで調べる	83.4	612
本で調べる	28.0	205
友人知人の意見を聞く	21.7	159
行政の相談を利用する	13.7	100
N P Oの相談を利用する	16.8	123

D. 考察

平成 19 年度から継続して検討してきたさいたま市とのN P O連携による検査事業の事業化を実現し、平成 20 年度から「さいたま市H I V（エイズ）即日検査・相談室」を開設し、平成 21 年度も継続して検査事業連携を実施した。また、平成 20 年度からの継続した行政との連携と計画により平成 21 年度には中野区との検査事業を開始し、「中野区保健所H I V即日検査・相談」を開設したことで、複数の連携事例の評価が可能となり、N P O連携による検

査事業の普及への第一歩となった。

表17 HIVやSTDを受診できる医療機関の認知

	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	111	25	136	47.19	***
いいえ	227	234	461		
未回答	15	20	35		
合計	353	279	632		

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, † p<.10

表18 HIVやSTDについて受診する際に重視する点

●プライバシー					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	268	192	460	3.97	*
いいえ	85	87	172		
合計	353	279	632		
●性行動への理解					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	149	204	353	25.9	***
いいえ	64	215	279		
合計	213	419	632		
●評判・クチコミ					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	61	292	353	9.18	***
いいえ	25	254	279		
合計	86	546	632		
●HIV感染者への理解					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	157	196	353	11.62	**
いいえ	87	192	279		
合計	244	388	632		
●同性愛・性同一性障害への理解					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	223	130	353	224.87	***
いいえ	14	265	279		
合計	237	395	632		

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, † p<.10

表19 HIVやSTDが不安な際の行動

●ネットで調べる					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	287	66	353	0.52	n. s.
いいえ	233	46	279		
合計	520	112	632		
●本で調べる					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	69	284	353	19.45	***
いいえ	98	181	279		
合計	167	465	632		
●友人知人の意見を聞く					
	同性愛	異性愛	合計	χ^2 二乗値	P値
はい	116	237	353	41.3	***
いいえ	31	248	279		
合計	147	485	632		

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, † p<.10

さいたま市の20年度の検査数実績と21年度の検査数実績を検査の種別（平日昼間、平日夜間、休日、休日即日（N P O連携））毎に比較すると、保健所での検査数は減少傾向にあるものの、N P O連携による検査では検査数の増加が見られた。これによりさいたま市全体の検査数実績では増加を果たすことができた。

中野区においても、保健所単体実施による昨

年度と今年度を比較すると検査数実績は減少していたが、NPO連携による検査事業化により、総受検者数においては昨年度よりも増加しており、全体として受検者の増加につながっている。

さいたま市全体の検査数のなかでNPO連携による検査事業の占める割合は、20年度44.9%、21年度45.5%と大きな位置を占めていた。

中野区の月別の推移においても、開設当初の6月は検査総数53件中NPO連携による検査数は29件(54.7%)、7月は56件中38件(67.9%)、9月は63件中43件(68.2%)と中野区の検査数のなかでNPO連携による検査事業の占める割合が増加している。21年度の合計では、中野区におけるNPO連携による検査事業の占める割合は49.0%であった。これらのことから、NPO連携による検査事業は地方公共団体の検査体制の充実に貢献しているといえる。

保健所単体での実施には、社会的な情勢、他の緊急的な疾病の存在などによる保健所担当者の負担増加の傾向や予算の減少など要素により、事業の成果において格差が生じる可能性があると推測される。一方、今年度の成果からNPO連携による検査事業の実施は保健所単体での実施よりも、保健所内での限られた人材資源の状況や社会情勢に左右されにくい方法であると推測できる。

NPO連携による検査事業における受検者数は、さいたま市においては、予約合計620名、受検者536名(男性314名、女性222名)であった。なお、要確認検査(判定保留)は、男性3名、女性1名の合計4名であった。また、確認検査の結果陽性件数はうち2件であり、陽性者については結果告知ならびに医療機関紹介を行い、受診についても把握できている。さいたま市におけるNPO連携による検査事業での陽性率は0.37%である。中野区においては、予約合計268名、受検者は238名(男性129名、女性109名)であった。なお、要確認検査(判定保留)はいなかった。

また、専用の予約・相談電話においては、NPOの持つ資源(毎日、昼夜、長時間等の高い利便性のある受付)とスキルを活用することで、相談や予約問い合わせの件数についても、「さいたま市HIV(エイズ)即日検査・相談室」では実際の受検536名に対し1433件の予約に関する問合せを、「中野区保健所HIV即日検査・相談」では、実際の受検は238名に対し310件の予約に関する問合せがそれぞれあり、

最大で受検者数の4倍の数の問い合わせが寄せられており、受検ニーズの発掘に大きな役割を果たしていると考えられる。

一方で、事業の定員を大きく超えて可能な限り受検者を受け入れてはいるものの、それをもってしてもニーズには応え切れていない状況が続いており、受検者のニーズに適合した受検機会の拡充が依然として求められている。

年齢層はさいたま市、中野区ともに20~30代の受検者が多く、感染の懸念される若年層の検査ニーズに答えていた。また受検動機について「性的接触」をあげるものがさいたま市で84.5%、中野区で85.7%、具体的に「感染の心配なことがあったから」が、さいたま市で42.2%、中野区で43.9%であることから、重要な経路である性行為が検査を受ける動機となり、感染が不安となる具体的な要因を抱え、具体的に受検を必要としている層に検査機会を提供できている。

受検理由では、「性的接触」をあげた人のうち、さいたま市では、異性間での感染不安をあげる男性が46.1%、女性が33.8%、同性間での感染不安をあげる男性は6.6%、女性が0.2%(N=1)であった。

また、中野区では、異性間での感染不安をあげる男性が40.2%(N=82)、女性が39.2%、同性間での感染不安をあげる男性は11.27%(N=23)、両性間での感染不安をあげる男性が2.9%(N=6)であり、中野区の方が男性同性間の受検が多く存在していた。

事業開始の当初より、定員を超える予約問合せがあったため、今年度は広報において特別なターゲット層は設けずに実施してきたため、この傾向はその地域特有のものであると推測され、今後地域に合わせた検査事業の展開を検討するうえで重要な要素である。

検査室の情報の入手先としてはさいたま市、中野区ともに「インターネット」が多数を占めており、インターネットの広報効果は高いことが伺える。また、検査を受けることにした理由については、「結果が当日に分かるから(即日検査)」「土日だから」「会場が駅に近いから」「即日」「日曜」「交通の便がよいこと」などの本事業の特徴を挙げるものが多かった。

また、受検者の住所地は、さいたま市では、「さいたま市内」が41.6%、「埼玉県内(市内を除く)」が47.0%、「埼玉県外」が11.0%であった。また、「中野区内」が31.5%、「その他都内(中野区内を除く)」が50.8%、「他道府県」が17.6%(N=42)であった。また、さいたま市の事例における保健所単体実施との

比較では、NPO連携による検査のほうに、「さいたま市以外埼玉県内居住者」の受検が多くあった。これらのことから、駅至便の会場であることや休日かつ即日などの利便性の高い要素をもつ検査場をNPOとの連携により実施することは、単にその地域（市内・区内等）のみに対する効果にとどまらず、その地域を含む広域に対する効果があることが伺え、地域の拠点となる検査場を創設できる可能性が示された。

検査における相談への評価としては、検査を受けて「役立つ知識が得られたか」については、さいたま市で78.7%、中野区で76.4%が、「不安・心配が和らいだか」については、さいたま市で85.3%、中野区で70.9%が「はい」と答えた。検査・相談を予防啓発の経験豊富なNPOのスタッフが担当することで、HIVについての知識の習得や不安の軽減など普及啓発の効果の高い事業となっている。

スタッフの対応等については、「スタッフの対応が丁寧だったか」はさいたま市91.9%、中野区91.6%と高い評価が得られた。さらに、個々の対応について、「検査前の説明はわかりやすかったか」はさいたま市80.4%、中野区89.5%、「検査結果の説明や相談は十分だったか」はさいたま市89.6%、中野区83.5%、「電話受付の説明は十分か」はさいたま市89.8%、中野区で86.6%であり、予約・相談から、検査前説明、結果告知後相談までNPOの担当する説明・相談対応は90%水準で高く評価され、NPOの持つ相談や予防啓発のスキルが検査事業において活用可能であることが示された。

個別施策層の受診に関する実態調査において、性感染症やHIVについて心配なときに受診できる医療機関の認知について尋ねたところ、「知っている」と答えたのは全体の19.1%（N=140）であり、受診できる医療機関の認知は進んでおらず、性感染症やHIVの治療を快適に受けられる医療機関はほとんど知られていない。受診の際に重視する点は、特に男性同性愛者にとっては、その性的指向、性行動、HIV感染者への理解である。診療に関する情報の提供については、男性同性愛者には、インターネットでの情報提供に加え、クチコミが有効であると推察される。検査後の受け皿として、このような点に理解のある医療機関の情報の収集とインターネットやクチコミでの情報発信の必要性が明らかとなった。

E. 結論

さいたま市とNPOの連携による検査事業化を実現し、「さいたま市HIV（エイズ）即日検査・相談室」を平成21年度も検査事業連携の継続を実現した。また、平成20年度からの継続した行政との連携と計画により平成21年度には中野区との検査事業を開始し、「中野区保健所HIV即日検査・相談」を開設した。これらにより、複数の連携事例の評価が可能となり、NPO連携による検査事業の普及への第一歩とした。

さいたま市・中野区ともに、保健所単体実施による昨年度と今年度を比較すると検査数実績は減少していたが、NPO連携による検査事業化により、総受検者数においては昨年度よりも増加しており、全体として受検者の増加につながっている。NPO連携による検査事業の実施は保健所単体での実施よりも、保健所内での限られた人材資源の状況や社会情勢に左右されにくい方法であると推測できる。

また、専用の予約・相談電話においては、受検者数の最大4倍の数の問い合わせが寄せられている。NPOの自助努力により定員を超過して可能な限り受け入れているが、それをもってしてもニーズには応え切れていない状況が続いており、受けやすい受検機会の拡充が依然として求められている。

年齢層はさいたま市、中野区ともに20～30代の受検者が多く、感染の懸念される若年層の検査ニーズに答えていた。また、感染が不安となる具体的な要因を抱えている層の受検が多く、具体的な受検を必要としている層に検査機会を提供できている。

また、受検者の性的指向は、中野区の方が男性同性間の受検が多く存在していた。今年度は広報において特別なターゲット層を設けずに実施している（ベースラインである）ため、この傾向はその地域特有のものであると推測され、地域性に合わせた検査事業の展開を検討するうえで重要な要素である。

受検者の住所地については、NPO連携による検査のほうに市または区以外の在住者が多数存在した。利便性の高い要素をもつ検査場をNPOとの連携により実施することは、単にその地域（市内・区内等）のみに対する効果にとどまらず、その地域を含む広域に対する効果があることが伺え、地域の拠点となる検査場を創設できる可能性が示された。

検査における相談では、予防啓発の経験豊富なNPOのスタッフが担当することで、HIVについての知識の習得や不安の軽減など普及啓発の効果も兼ね備えた事業となっている。ま

た、予約・相談から、検査前説明、結果告知後相談までNPOの担当する説明・相談対応は90%水準で高く評価され、NPOの持つ相談や予防啓発のスキルが検査事業において活用可能であることが示された。

また、性感染症やHIVの治療を躊躇なく受けられる医療機関はほとんど知られていない状況が明らかとなり、受診の際に重視する点は、特に男性同性愛者にとっては、その性的指向、性行動、HIV感染者への理解であることが判明した。今後は、検査後の受け皿として、このような点に理解のある医療機関の情報の収集と情報提供が必要である。

F. 健康危険情報

なし

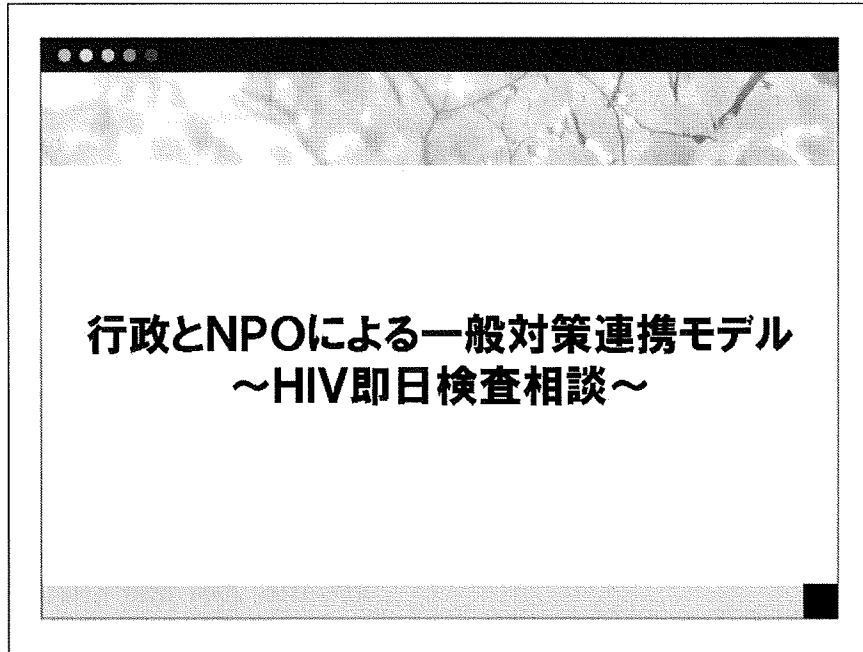
G. 研究発表

1. 原著論文 (英文)

1. Koike K, Kikuchi Y, Kato M, Takamatsu J, Shintani Y, Tsutsumi T, Fujie H, Miyoshi H, Moriya K, Yotsuyanagi H. Prevalence of hepatitis B virus infection in Japanese patients with HIV. *Hepatol Res.* 2008 Mar;38(3):310-4.
 2. Tanuma J, Fujiwara M, Teruya K, Matsuoka S, Yamanaka H, Gatanaga H, Tachikawa N, Kikuchi Y, Takiguchi M, Oka S. HLA-A*2402-restricted HIV-1-specific cytotoxic T lymphocytes and escape mutation after ART with structured treatment interruptions. *Microbes Infect.* 2008 May;10(6):689-98.
 3. Tokuda H, Sakai F, Yamada H, Johkoh T, Imamura A, Dohi M, Hirakata M, Yamada T, Kamatani N, Kikuchi Y, Sugii S, Takeuchi T, Tateda K, Goto H. Clinical and radiological features of *Pneumocystis pneumonia* in patients with rheumatoid arthritis, in comparison with methotrexate pneumonitis and *Pneumocystis pneumonia* in acquired immunodeficiency syndrome: a multicenter study. *Intern Med.* 2008;47(10):915-23.
 4. Gatanaga H, Tsukada K, Honda H, Tanuma J, Yazaki H, Watanabe T, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S. Detection of HIV type 1 load by the Roche Cobas TaqMan assay in patients with viral loads previously undetectable by the Roche Cobas Amplicor Monitor. *Clin Infect Dis.* 2009 Jan 15;48(2):260-2. (和文)
1. ○菊池 嘉. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 「HIV診療支援ネットワークを活用した診療連携の利活用に関する研究」平成20年度報告書
 2. ○菊池 嘉 悪性腫瘍を合併した3例 HIV/AIDS 2008 治療学 42(5):607-611
 3. 小池和彦、菊池 嘉、安岡 彰、山中晃、後藤耕司. HIV感染症に合併する日和見感染症の現状と治療. 日本内科学会雑誌. 98(11): , 2009.
2. 単行本
1. ○菊池 嘉 II-9感染症検査とは. III-15 性感染症. 新検査のすべてがわかる本 矢富 裕, 野田光彦 編著, 時事通信社, 東京, p122-132, p272-273, 2008.
 2. ○菊池 嘉 後天性免疫不全症候群. 病気と薬 パーフェクト BOOK 2008. 池田宇一, 大越教夫, 横田千津子 監修・編集, 南山堂, 東京, p740-747, 2008
3. 総説
1. ○菊池 嘉. HIV・HCV合併例の抗ウイルス療法 C型肝炎のすべて 2009. 肝胆膵 57(5):997-1004, 2008.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし



「NPO連携による検査事業連携」

① さいたま市における検査事業の実施

★NPO連携によるHIV検査の新規事業化
★昨年度から継続して検査事業連携を実施

市報

② 中野区における検査事業の実施

★NPO連携によるHIV検査事業の蓄積
→今年度より検査事業連携を開始
(6月27日より)
→地域比較で汎用性の高い事例化を図る

区報

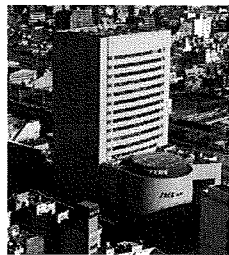
The complex block contains two main sections. The first section, titled '① さいたま市における検査事業の実施', lists two bullet points: '★NPO連携によるHIV検査の新規事業化' and '★昨年度から継続して検査事業連携を実施'. To the right of this text is a thumbnail of a newspaper clipping from '市報' (City Report) with a small graphic of a syringe. The second section, titled '② 中野区における検査事業の実施', lists three bullet points: '★NPO連携によるHIV検査事業の蓄積', '→今年度より検査事業連携を開始 (6月27日より)', and '→地域比較で汎用性の高い事例化を図る'. To the right of this text is a thumbnail of a newspaper clipping from '区報' (District Report) with a small graphic of a globe.

「さいたま市HIV即日検査・相談室」

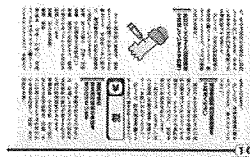
① さいたま市における検査事業の実施

★NPO連携によるHIV検査の新規事業化

★昨年度から継続して検査事業連携を実施



市報



「さいたま市HIV即日検査・相談室」の概要

2008年5月より、さいたま市の委託事業によって、
NPO法人アカーの運営で、
利便性の高いHIV検査室を、年12回（毎月1回）開設。

名称：さいたま市HIV(エイズ)即日検査相談室

場所：大宮情報文化センター5階
集会室①・②（通称JACK大宮）

開設日：平成20年5月24日

実施：毎月第2日曜／午後2時～5時

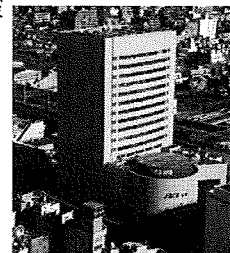
定員：30名／予約制

設置主体：さいたま市保健所

実施主体：NPO法人アカー

協力：埼玉県臨床検査技師会

●会場施設外観●



・駅から至近の公共施設
・大宮駅西口より徒歩1分

「さいたま市HIV即日検査・相談室」の概要

広報：

○インターネット

- ・エイズ予防情報ネット（API-Net）
- ・HIV検査相談MAP
- ・さいたま市保健所HP
- ・NPO法人アカーHP

○さいたま市報に情報掲載（年1回）

○広報カードの作成と配布

- ・ゲイ向け施設へ200枚配布
（市内2カ所、県内2カ所：計4カ所）

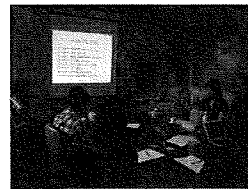
研修実施：

○年間6回実施

- ・基礎研修1、基礎研修2（全職種対象）
- ・役割別研修、専門家向け研修
- ・他検査機関視察

●広報カード●（名刺大）

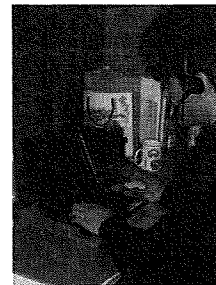
日曜・午後に受けられる、
大宮駅前・即日HIV検査（無料・匿名）
■受付時間 14:00～17:00
■予約電話 050-3566-0018
■受付時間 12:00～20:00（※当日はホームページで案内）
■検査内容 HIV抗体検査（初回）
※初回検査は無料です。匿名、即日検査結果がわかる検査となります。
・結果は匿名でご記入します。結果書は発行しません。
・プライバシーを守り、検体もすべて検体保管庫に回収していただきます。検査結果は郵送でお知らせいたします。



「さいたま市HIV即日検査・相談室」の概要

事業内容：

- ①無料・匿名による即日HIV検査
 - ・IC法による即日検査
- ②検査に伴う相談&カウンセリングの実施
 - ・検査前、検査後相談の実施
- ③予約・相談の電話回線を設置
 - ・050-3566-0018
（受付時間：毎日12時～20時）
（昨年度1308件の相談問合せ）



人員体制：

- ・医師、看護師、検査技師、臨床心理士
事務、ボランティアなど
（各回12～13名程度）



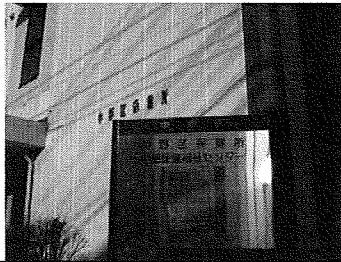
「中野区保健所HIV即日検査・相談」

② 中野区における検査事業の実施

★NPO連携によるHIV検査事業の蓄積

→今年度より検査事業連携を開始
(6月27日より)

→地域比較で汎用性の高い事例化を図る



区報



「中野区保健所HIV即日検査・相談」の概要

2009年6月より、中野区の委託事業によって、
NPO法人アカーの運営で
HIV検査室を年6回(隔月)開設。

名称：中野区保健所HIV即日検査・相談

場所：中野区保健所

開設日：平成21年6月27日

実施：隔月土曜日(原則第四)

定員：50名/予約制

設置主体：中野区保健所

実施主体：NPO法人アカー

事業内容：

- ①無料・匿名による即日HIV検査
- ②検査に伴う相談&カウンセリングの実施
- ③予約・相談の電話回線を設置

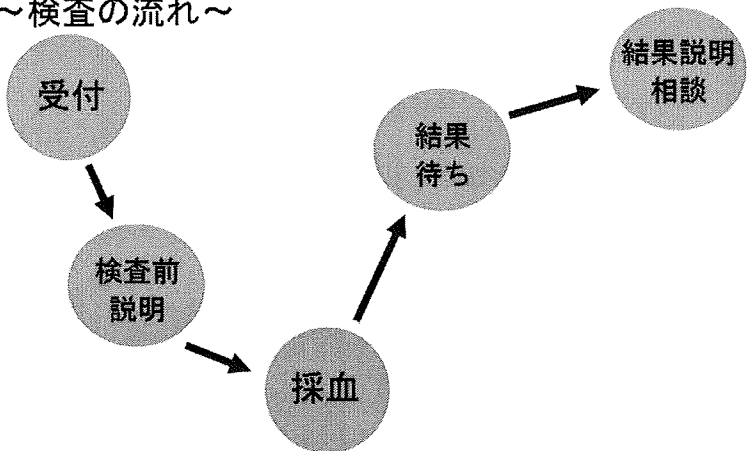
●中野区保健所



保健所において
実施した事例

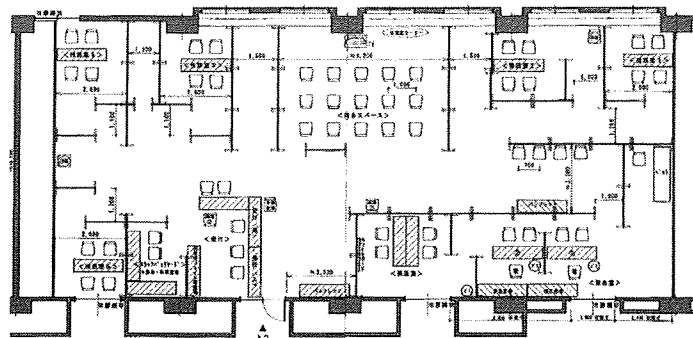
「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

～検査の流れ～



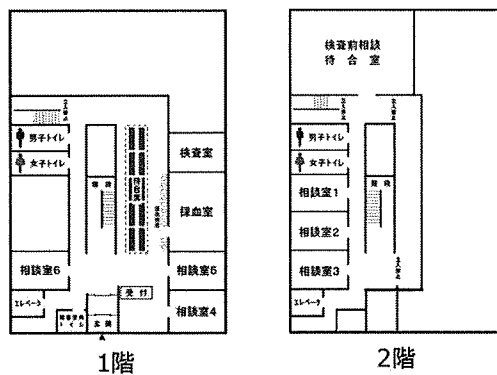
「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

● さいたま市会場図



「さいたま市H I V即日検査・相談室」
 「中野区H I V即日検査・相談」

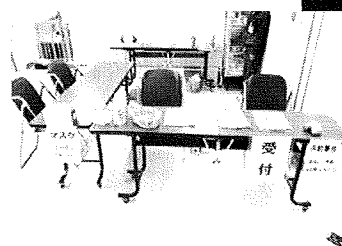
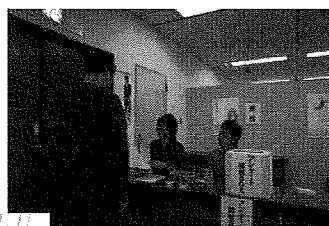
● 中野区会場図



「さいたま市H I V即日検査・相談室」
 「中野区H I V即日検査・相談」

● 受付 さいたま市

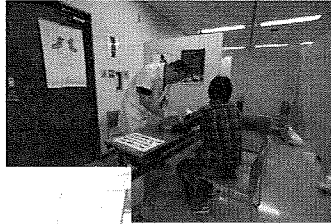
中野区



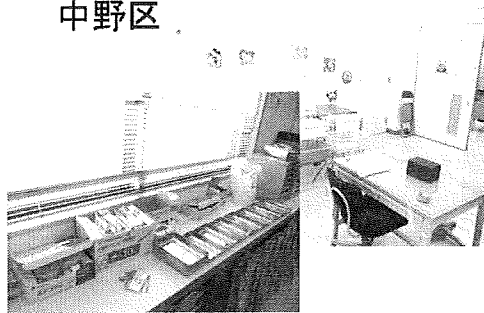
「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

採血

さいたま市



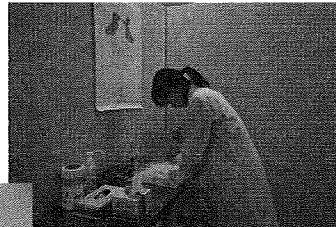
中野区



「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

検査

さいたま市



中野区



「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

● 冊子など



「さいたま市H I V即日検査・相談室」
「中野区H I V即日検査・相談」

● 結果説明
相談

- 1) 医師による結果説明
- 2) HIVについての相談と予防法について
- 3) 要確認検査時
 - 今回の検査結果についての説明と精神的支援

「NPO連携によるHIV即日検査・相談室」の特徴

① 即日検査であること

- ・ 近年、ニーズが高い即日検査の実施

② 土曜日の午後に実施していること

- ・ NPOとの連携による休日検査の実施
- ・ 土・日曜の午後の実施

③ NPOの経験を活かした相談の実施

- ・ HIV/AIDSの分野で経験豊富なNPOのスキルの還元
- ・ 検査前後の相談や予防&啓発の実施

HIV即日検査を受ける方へ

待ち時間に、枠内のご記入をお願いします。
 この質問票は、検査判定に必要な項目と、この後検査前の説明や相談の際に参考とさせていただきます。可能な範囲でご記入をお願いします。

(当てはまる□にレ印、当てはまる()に記入をしてください)

あなたについて	年齢	歳	性別	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女
	住所	<input type="checkbox"/> さいたま市内	<input type="checkbox"/> その他埼玉県内	<input type="checkbox"/> 県外	

1. 検査について

・HIV検査は受けたことがありますか？ .. 今回初めて受ける

受けたことがある()回目
 →前回は平成()年()月頃

2. 今回何がご心配で検査を受けますか？

性的接触による感染の心配がある .. 相手は、 男性 女性 両方
 時期は平成()年()月頃

血液による感染の心配がある .. 時期は平成()年()月頃

血液製剤、輸血による感染の心配がある

母子感染の心配がある

気になる症状がある ()

その他 ()

・感染予防のための相談を希望しますか .. 希望する 希望しない

3. 既往(今までに以下のようなことがありましたか？)

コウケンボウ

・ リウマチ、膠原病などの自己免疫疾患にかかったことがありますか？ 有 無

・ 輸血を受けたことがありますか？ 有 無

・ 性感染症にかかったことがありますか？ 有 無

有の方→ 梅毒 クラミジア その他()

・ (女性のみ)妊娠している又はしている可能性はありますか？ 有 無

中野区HIV即日検査・相談

土曜日の午後、匿名（プライバシーを守ります）、無料の即日検査です。

平成21年6月より、中野区保健所（JR中野駅から徒歩8分）で、検査当日に検査結果をお知らせできる「即日検査」を実施しています。

結果は、当日2時間程度でお知らせいたします。

※ まれに確認検査が必要になる場合があります。その際は、後日改めて中野区保健所にて結果をお伝えいたします。

※ 証明書の発行はいたしません。

【検査日程】下記日程表の第4土曜日

6月27日(土)
7月25日(土)
9月26日(土)
10月24日(土)
12月12日(土)
1月23日(土)

※12月のみ第2土曜日

【会 場】中野区保健所

（中野区中野二丁目17番4号）

【受付時間】午後1時～2時半

【予 約】☎03-6382-6190

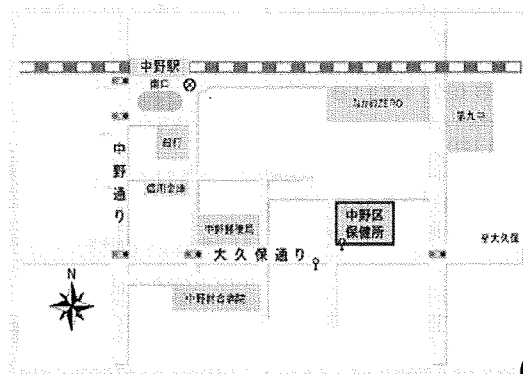
（受付：NPO法人アカー）

【予約時間】原則午後2時～6時

（検査のある月の1日から）

【定 員】50名（予約制）

=MAP=



検査についてのお問い合わせは、NPO法人アカー（03-6382-6190：予約日の午後2時～6時）まで。

即日検査

料金無料

匿名

🎗️ **さいたま市 HIV(エイズ)即日検査・相談室** 🎗️

日曜午後

プライバシー厳守

JR 大宮駅から徒歩 3 分の場所で、検査当日に検査結果をお知らせできる「即日検査」を実施しています。

結果は、当日 1～2 時間程度でお知らせいたします。

※ ただし、まれに確認検査が必要になる場合があり、その際は、後日改めてさいたま市保健所にて結果をお伝えいたします。

※ 証明書の発行はいたしません。

日程：毎月・第 2 日曜日 (月により異なる場合があるので、下の日程表をご覧ください)

定員：30 名 (予約制)

受付時間：午後 2 時～4 時

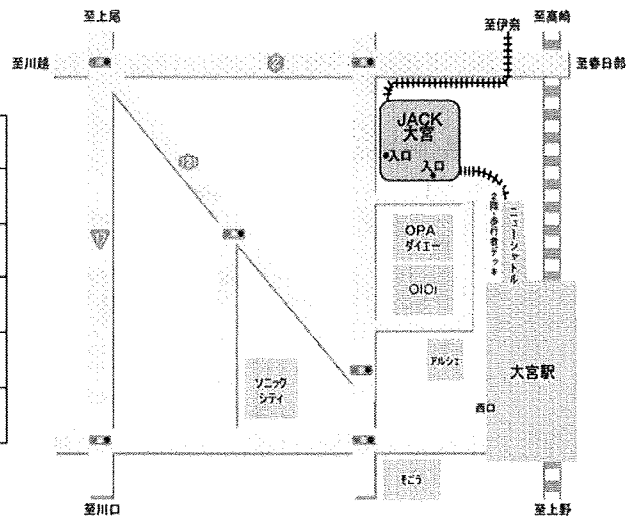
予約：受付電話 03-6382-6180
(受付：NPO 法人アカー)

会場：さいたま市宇宙劇場 (JACK 大宮)
5F 集会室 (大宮区錦町 682 番地 2-5 階)

予約時間：12 時～20 時 (毎日)

検査日程表 (平成 21 年度)

4月12日(日)	10月12日(祝月)
5月10日(日)	11月8日(日)
6月14日(日)	12月13日(日)
7月12日(日)	1月11日(祝月)
8月9日(日)	2月14日(日)
9月13日(日)	3月14日(日)



※お車での来場はご遠慮ください。

検査についての問い合わせは、NPO 法人アカー (03-6382-6180 : 12～20 時) まで。